

令和3年度 東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員会

「進路対策委員長あいさつ」

山形県立山形西高等学校 布施 将英



(東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員長)
(全国高等学校PTA連合会 進路対策委員)

令和3年度東北地区高P連進路対策委員会委員長を拝命しております、山形県高P連会長布施将英と申します。本来ならば進路対策委員会をここ山形にて開催予定でしたが、リアル開催で多方面からご参加の皆様を募る催しについて社会的な同意を得づらいつと察し、開催中止の判断を取りましたこと改めてお詫び申し上げます。

大変な時代を過ごしていると感じる反面、これまでの当たり前を見直し前例踏襲から刷新するきっかけになる今年度。リモートや書面での会議も増え、高P連全国大会や全国の会議についても、リモートが常態化するようになりました。世界的に流行している「コロナ禍」において、激動な時代の流れには抗う事も出来ませんが、こんな時こそ目的と信念を再度練り固め、私達PTAが子供・学校・地域と連携して、会員の皆様と新しい活動やあり方を創造してまいりたいと存じます。

……各県委員長あいさつ……

「コロナ禍の進路対策」

秋田県立横手清陵学院高等学校 金澤 直樹



秋田県では令和3年3月卒業の高卒進路について進学率は増加したが私立大が減り国公立が増加。就職者は減少したものの県内就職が増加。これもコロナ禍の影響を反映した結果だろう。秋田県では、延期していた進路対策委員会を1月18日に予定している。時期柄、最新の就職状況に絞って当委員会のメンバーと県とで情報交換し各高校に情報共有したい。

本校はICT推進校に指定され様々な取り組みに挑んできた。進路ガイダンスでは希望進路ごとに小グループにわかれ県内外の講師とネットをつなぎ質疑応答が交わされた。一足早く進路を決めた3年生から後輩へ進路決定への様々なアドバイスをする合格体験発表会を実施するなどした。また、中高一貫校である特色から中学時代より進路実現へのキャリア教育を積極的に行っている。いずれにしても生徒の進学や就職に大きな影響を及ぼしているコロナ禍が一日も早く終息することを願う。

「企業から求められる学生像」

宮城県亘理高等学校 高橋 真



宮城県高P連進路対策委員会もコロナの影響を受けて大きな活動は出来ませんでしたが、進路対策委員の研修会を開催しました。

県内地元企業の経営者をお招きし『企業が求める生徒像』をテーマにご教示いただきました。メールやLINEを多用する現代において必要とされる対人コミュニケーションのあり方、トーク&レスポンスの重要性、そして近年の入社試験面接や入社後にどのような会話がなされているかなどを聴き、とても考えさせられる研修会となりました。

その中で、「会話の中で相槌が打てない子供が多く、理解を示す事が出来ない機械やロボットと話をしているようだ。会話にならない」と、手厳しいご意見も頂き委員会としてもしっかり改善をしないと話しました。

これからも宮城では引き続き多方面の方々と連携をしっかりと取りながら子供達の未来をサポートしていきたいと考えています。

令和3年度 東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員

委員長 布施 将英 (山形県立山形西高等学校)	委員 三浦 繁子 (青森県立青森中央高等学校)
副委員長 芦埜 貴之 (山形県立谷地高等学校)	委員 道地 勇 (岩手県立伊保内高等学校)
副委員長 金沢 直樹 (秋田県立横手清陵学院高等学校)	委員 高橋 真 (宮城県亘理高等学校)
	委員 本名 由美 (福島県立若松商業高等学校)

「VUCA時代に生き抜くスキルを」

青森県立青森中央高等学校 三浦 繁子



本県の活動は、ここ数年に習って県総合社会教育センターとの共済事業として開催しました。「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム・予測困難な社会状況を生きる生徒にどんな能力を育むか」にて2年ぶりに開催することができました。コロナ禍により会場参加者を制限してオンライン受講も可能とし、基調講演もオンラインによる講演会となりました。私は会場参加でしたが、画面越しの講演でも問題はなく、大変考えさせられる内容を聞くことができ、貴重な時間を過ごせた充実感がありました。同時に、多くの方がリモート参加してくださり同じ時間を別空間にて共有できたことも嬉しく思いました。その貴重な講演の主題を本報告のタイトルとしました。子供たちはもちろんのこと私たち保護者も変化への対応力・自ら問いを立てる力・他人事を自分事化する力を付けなければいけない時代であると教えられました。

「コロナ禍での活動について」

岩手県立伊保内高等学校 道地 勇



本年度、岩手県高P連進路対策委員会の委員長になりました道地と申します。私自身、この委員会がどのような活動をするのか全く分からずに始まることとなりました。しかし、周りの委員の方々や県高P連事務局長さんの力を借りながら運営することができました。今年度も講演会を実施することにしましたが、コロナ禍で就職試験がどのようになっていくのか親としても興味のあることでしたので、県高P連事務局に相談して、講師としてジョブカフェいわてプロジェクトマネージャー「牛崎 志緒」氏による『若者の就職支援から見えること』と題して講演をいただきました。大変参考になりました。子どもたちと話し合いを持ちながら進路決定の参考にしていきたいと思います。

東北高P連進路対策委員会の方々とは顔を合わせる機会はありませんでしたが、情報交換もできず残念に思います。

「変わりゆく世の中における進路選択について」

福島県立若松商業高等学校 本名 由美



令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策により活動ができませんでした。グローバル化、デジタル化、これまではなかった仕事、変わる仕事、無くなる仕事等多様であり変化が激しい時代です。変化や予測不可能なことに、自分で柔軟に対応していかなければなりません。他に頼らずに独り立ちするという「自立」と、自分の意思をしっかりと持ち、定められたルールに従って行動を選択できるという「自律」、この二つが求められていると思います。また、自ら学ぶ力や自己管理能力も求められています。

困難な時代だからこそ、自分で考え決めて行動できる力が必要かつ重要だと思います。そして我々保護者は、身近な社会人として、味方支援者として本人と関わることが重要ではないでしょうか。

今後も、PTAや高P連の活動がますます魅力的なものになっていくことを祈念致します。

「探究実践プロジェクトを応援」

山形県立谷地高等学校 芦埜 貴之



今年度100周年を迎える本校でも新型コロナ禍でPTA活動がままならない状況が続いていますが、PTAが特に応援している活動を1つご紹介します。本校では「総合的な探究の時間」を先取りする形で、今年度から更なる多様な社会で生き抜く力を身に付けられる人材育成と、経済社会に必要なとされる「課題発見・解決力」「創造性」の育成を図るため、河北町と地域商社「かほくらし社」と学校との間で産学官連携探究実践プロジェクトをスタートさせました。プロジェクトは生徒と地元企業が連携し、課題解決を目的に企画から販売までを一貫して学ぶ活動です。PTAとしても学校と連携を図りながら事業運営を積極的に応援して参りたいと考えております。

編集：令和3年度「進路対策委員会」主管 山形県高P連事務局